

出水市エコツーリズム推進全体構想概要

1. 背景及び目的

出水市は、ラムサール条約湿地に登録された「出水ツルの越冬地」をはじめとする多様な自然環境と生き物が存在するとともに、出水麓（いずみふもと）武家屋敷群や戦争遺跡等をはじめとする歴史や文化も学べる観光地である。「出水ツルの越冬地」の存在は歴史的な人の営みとも関わりがあるとともに、ツルと地域・住民は長年にわたって共存をはかってきており、その取り組み成果がラムサール条約湿地の登録につながったともいえる。登録湿地となったエリアのほとんどは17世紀に始まった干拓事業で造成された水田であり、これらは人工的な湿地ともいえる。登録湿地を中心に毎年10月から翌年3月まで、世界に生息するナベツルの約9割、マナヅルの約4割が越冬するため渡来する。その他の種類のツルも含め渡来数と種類の多さは日本一といわれる。

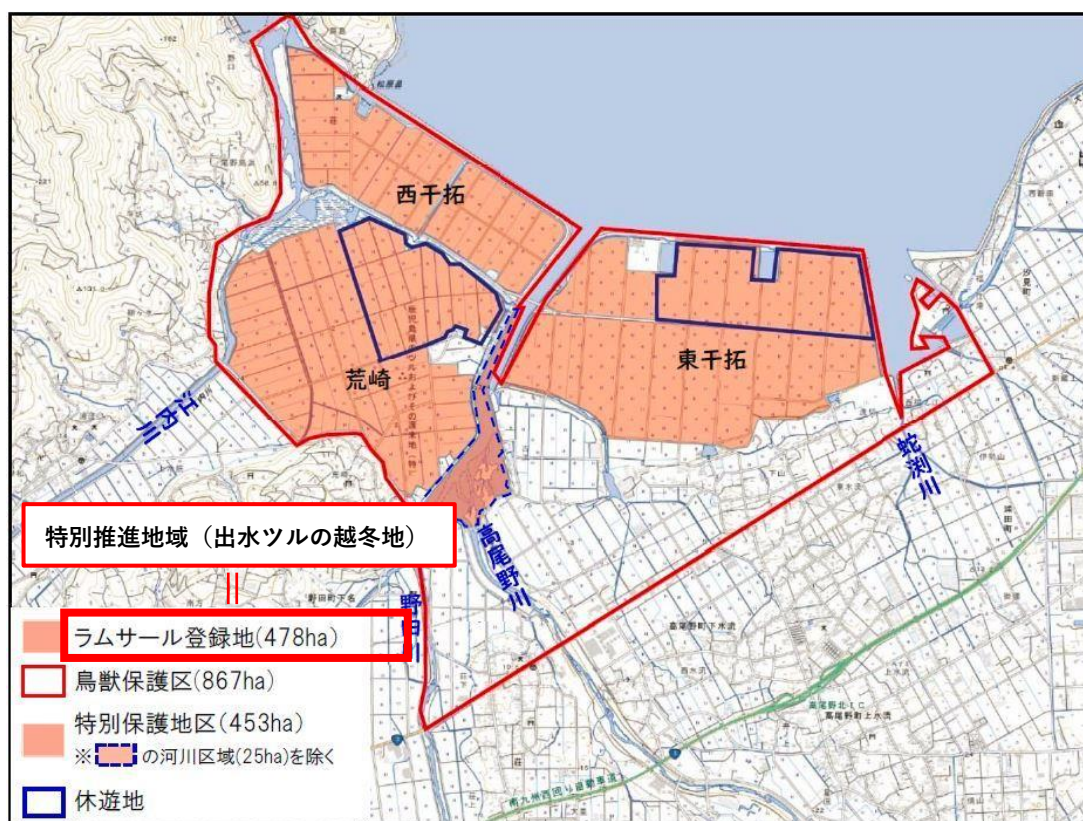
このように本市は長い年月にわたる「人と自然のつながり」、「自然と歴史・文化のつながり」を体感できる地域である。「出水市エコツーリズム推進全体構想」（以下、全体構想）を策定し、エコツーリズム推進のための基本的な考え方と、保全と利用を両立するための取り組みについて記載し、今後の指針とする。

2. 概要

(1) 出水市エコツーリズム推進全体構想を推進する地域

推進する地域は市全域（以下、本市）とする。

推進地域のうち、国際的にも重要とされているラムサール条約湿地「出水ツルの越冬地」を特別推進地域としてゾーニングする。休遊地借り上げへの協力、消毒等防疫体制、農作物の鳥獣被害への対応等、ツルと共存するための地域社会が構築されている。エコツーリズムの理念や行動規範を学ぶ場として特に重要である。ツル渡来期における特別推進地域（出水ツルの越冬地）への入域に関するルールとして既に実施している利用調整を、今後も社会状況に応じて調整しつつ実施する。



【特別推進地域（出水ツルの越冬地）の範囲】

（２）対象となる自然観光資源

本市は八代海（不知火海）に臨む場所に位置し、三方を山地に囲まれ、これらの山系から流れ出る河川が扇状地と沖積平野をつくりだしている。“出水”という地名は湧水の豊かさに由来するという説もあり、湧水の存在と干拓地の肥沃な土壌により、本市は県内有数の水田地帯となっており、それらが出水平野の景観を、ひいてはツルの越冬地を生み出している。

1,000m を超える紫尾山系には一部にブナ林が見られるほか、シダの宝庫としても知られる。また矢筈山にはイスノキ林、出水平野の塩沼湿地には塩沼植生が見られる。面積の割に自然環境の多様性が高いことが大きな特徴であり、日本で観察できる約 600 種類の野鳥のうち、約 300 種類の野鳥が観察できる国内有数のバードウォッチングのフィールドである。

出水市は薩摩藩と熊本藩との藩境にあり、熊本藩からの侵入を防ぐために薩摩藩の重要な防衛拠点の位置にあり、藩最大規模の武家屋敷群「出水麓」が形成された。この防衛拠点となる町、人々の食、暮らしを支えるために多くの田が必要となり、出水では積極的に干拓が行われ、その干拓地が現在ツルの越冬地となっている。

以上を踏まえて、出水市における自然観光資源を構成する地域資源を以下のように整理・区分する。

- 1) 自然環境に係る観光資源
- 2) 自然環境と密接な関連を有する風俗慣習や伝統的な生活文化に係る観光資源
- 3) 歴史・文化に係る観光資源
- 4) 上記の 1 及び 2 に該当しない地域の観光資源

（３）エコツーリズムの推進方針

本構想で推進するエコツーリズムの基本方針は以下のとおりである。

< 基本理念 >

私たちは、出水ならではの自然や歴史・文化などの既にある観光資源はもとより未活用の資源にも幅広く目を向け、さらにそれらのつながり（地域の物語）を発掘し活用することで、地域の自然、歴史・文化、そして住む人、訪れる人々が共生・共存しながら発展するまち「出水」を目指す。

< 基本方針 >

- 1) 自然観光資源とそれらを守り育てる地域住民の生活・生活環境の保全
- 2) エコツーリズム拠点の強化とネットワークの仕組みづくり
- 3) 自然観光資源を守り育て活かす、多様な情報発信の充実
- 4) 未活用の資源の活用と人材育成を通じた観光産業や地域の育成
- 5) 出水ならではの物語の発掘と紹介

< キャッチコピー >

豊かな自然の中で住む人訪れる人が共生をめざすまち「出水」



ナベツル・マナヅル



越冬地の風景

(4) 出水市エコツーリズム推進全体構想の実施方法

基本方針を踏まえエコツーリズムを推進する上でのルール、ガイドンス及びプログラム、モニタリング及び評価について整理。

1) ルール

ルールによって保護する対象は次の6点とした。①動植物や自然環境、②文化的環境、③利用者の安全、④ツアーの質、⑤地域経済と地域住民の暮らし、⑥その他

ルールの内容はエコツアー実施団体向けルール、一般観光客向けルールに分けて設定。

2) ガイドンス及びプログラム

本市においては、これまでの「ツル」と「武家屋敷」という伝統的な観光資源を大切にしつつ、自然、歴史文化、そして地域住民の生活と結びついた幅広い観光資源を活用し、地域と観光客双方にとって意義のある内容を育てていくことを目標として取り組む。既に実施されているツアー・プログラム及び今後エコツーリズムの推進に伴い実施が検討されるものとして以下が挙げられる。

- ① 出水ならではの自然環境や歴史文化の魅力を引き出し、活用するツアー
- ② ツルと人との共生の取り組みについて学ぶツアー
- ③ 自然環境と共存する出水のライフスタイルを共感するツアー（農泊等）
- ④ 出水のライフスタイルを次世代につなぐツアー
- ⑤ 出水の自然、人、歴史や産業等のつながりを体感するツアー

3) モニタリング及び評価

モニタリングの主な対象は以下のとおりとする。

- ① 資源の状態（自然環境、歴史文化等、エコツアーで活用している資源全般）
- ② 利用状況
- ③ その他

現在行われている各種モニタリングは以下の通りである。

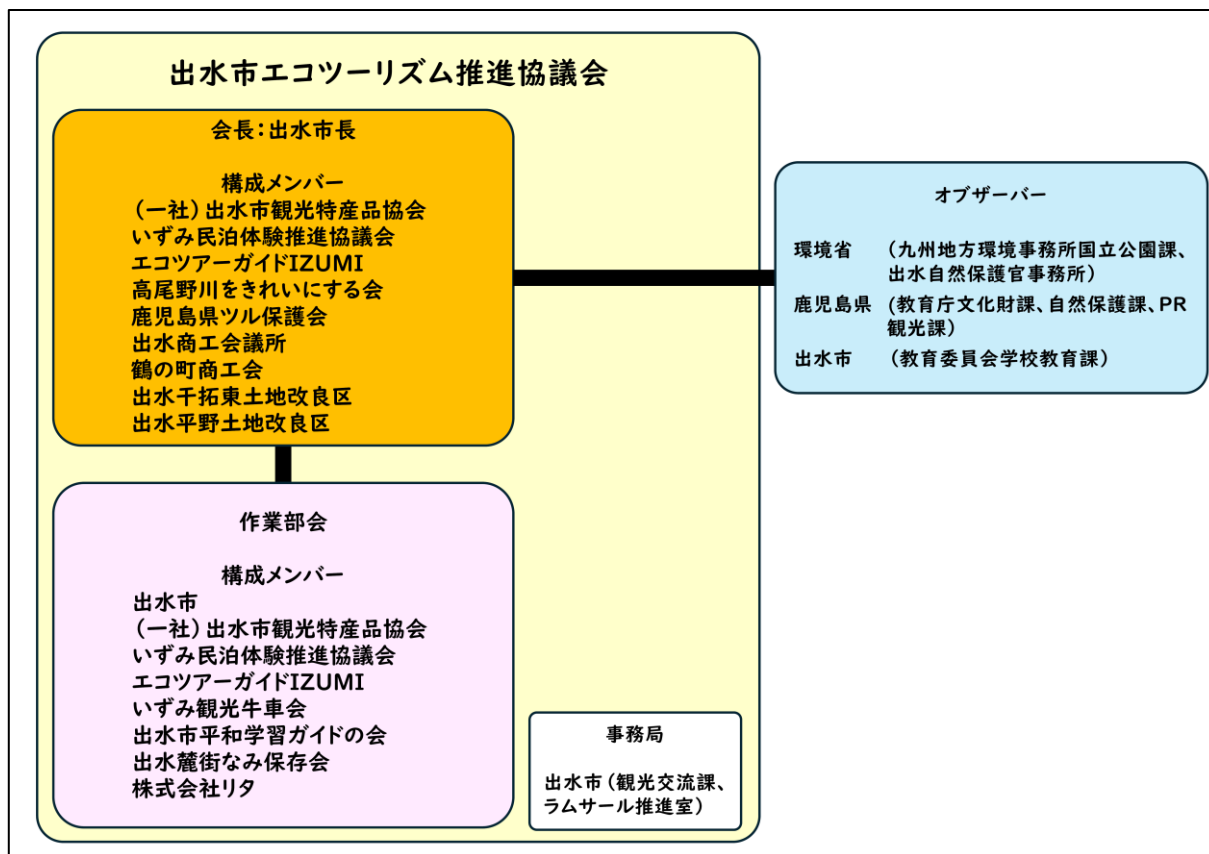
内容	概要	実施頻度	実施主体
資源の状況	・ 出水ツルの越冬地におけるツルの種類と羽数のカウント	毎年	ツルクラブ、鹿児島県ツル保護会、ボランティア
	・ 干潟の学校：東干拓の干潟における生物調査 ・ 田んぼの学校：荒崎地区の田んぼにおける生物調査	毎年	クレインパークいずみ
利用状況	・ 出水ツルの越冬地への来訪者数、協力金受領状況等	毎年	出水ツルの越冬地生物多様性協議会
	・ 観光の状況（観光基本計画の目標指標）延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数、観光入込客数、来訪者リピート意向	毎年	出水市、市内事業者、鹿児島県

上記に加えて、本構想においては主としてエコツアー実施団体による簡易モニタリング（簡便かつ継続可能な手法による各種資源の状況や利用状況把握）を行うこととする。具体的には、各エコツアー実施団体はツアー実施時など日頃から普段活用している資源の状況、利用状況、その他の変化に注意を払い、必要に応じて協議会、資源や施設等の管理者に報告するものとする（報

告方法・様式は任意)。

モニタリングの報告事項については、協議会において集約した情報を構成員に共有し、協議会の場にて専門家や研究者を交えて評価を行う。

(5) 出水市エコツーリズム推進全体構想の推進体制



■ 出水市におけるエコツアーの様子写真

ツル・野鳥ガイド



出水麓・歴史ガイド



いずみ観光牛車乗車体験

